

令和6年度 認定こども園いちじまこども園 こども園評価の結果と改善の方策

| | | |
|--------------|---|---|
| 教育・保育の理念 | 受 容 ・ 信 頼 ・ 貢 献 感 | 生きよう 力いっぱい 自分らしく まっすぐに |
| 保育者の姿勢 | よく見て、よく聴いて、よく考えて言動する | |
| 本年度の重点的改善方策 | <ul style="list-style-type: none"> ・園内研修の年間計画を立て、全職員が学び合う環境を整え、教育・保育の質の向上に努める。 ・園外研修で学んできたことを他の職員にも広げるため、還流できる具体的な方法を検討し実施していく。 ・こども園安全計画を見直す。園の現状や実態に即した、より安全な生活・環境を確保できる内容に改定する。 ・ブログやホームページの閲覧率が低いことについての対策と事務の効率化、ペーパーレス化の面から、お便りやブログ、連絡などの情報発信について総合的に見直し、情報機器の活用法と効果的な伝え方について検討を進め、可能なことから実施をしていく。 | |
| 評価の項目 | アンケートのまとめ (○成果と△課題) | ・改善の方策 |
| 教育・保育の充実 | <ul style="list-style-type: none"> ○家庭への貸出絵本を再開することができ、絵本を通して親子の触れ合いの時間を増やすことができた。 ○紙芝居、絵本等の整理を行ったことで、子どもに合った内容の物を選びやすくなり教育・保育の充実につながった。 △子ども達の遊びの環境について、検討が深められなかった。 | <ul style="list-style-type: none"> ・貸出絵本の活用を更に効果的にするために、年2回ドキュメンテーションで読み聞かせの良さを伝えていく。 ・「子どもが夢中になって遊ぶ環境構成」について話し合う機会を計画的にもつことで、子どもの理解を深められるようにする。 |
| 健康支援及び衛生管理 | <ul style="list-style-type: none"> ○体調不良や怪我の初期対応を、保育者と看護師が協力して行うことができた。 ○安全を意識した園内の環境整備ができた。 ○感染症や疾病について保護者にイロドリリンクで、早期に啓発することができた。 △園庭や園周りの環境においては安全面、衛生面で不十分なところがあった。 | <ul style="list-style-type: none"> ・保育者も健康に関する知識を深め、具体的な怪我の処置や体調不良時の対応についての研修を行う。 ・園内の環境整備や整理整頓を引き続き計画的に行う。 ・園庭・園周りの環境整備を進め、適切な環境を保てるよう人員や時間の確保に努める。 |
| 食育の推進 | <ul style="list-style-type: none"> ○推奨している「早寝・早起き・朝ごはん」の歌と振り付けを見直し、リニューアルした。全体の集まりやクラスで楽しむことができ保護者への啓発にも繋がった。 ○コロナ後は畑の野菜を使った収穫祭や子ども主体のクッキング活動ができた。 ○収穫祭には、元気クラブさんを招待し地域の方との交流も図れた。 △家庭では食事マナーについての声かけが少なかった。 △異常気象により、暑すぎたため畑に行けず思うように活動が出来なかった。 | <ul style="list-style-type: none"> ・食事のマナーについて、園だけでなく家庭でもしてもらえよう啓発をしていく。 ・クッキング活動の目的や内容を再検討し、新しいメニューを取り入れるなど食育活動に広がりをもてるようにする。 ・畑での子どもの活動のねらいを明確にし、視覚的にわかりやすい食育カレンダーを作成していく。 |
| 災害への備え及び安全管理 | <ul style="list-style-type: none"> ○新様式の安全計画を作成することができた。 ○各クラスでは安心・安全な環境を整えて教育・保育ができた。 △避難訓練を月1回実施しているが、災害訓練のイメージが保育者によって違った。 △業務継続計画（BCP）の検討はしたが作成はできなかった。 △保護者による子どもの送迎時に、チャイルドシートをしない、駐車場走りまわるなどの危険な姿が多くあった。 | <ul style="list-style-type: none"> ・新しい安全計画を全職員が理解し、教育・保育場面での安全指導、災害や事故発生時の対応、交通安全等の安全指導を計画に沿って実施していく。 ・業務継続計画（BCP）の作成に着手する。 ・保護者に災害時の対応や引き渡し訓練等の意義や方法等についてわかりやすく伝えていく。 ・現在使用している防災頭巾の点検を行い、有事に確実に活用できるように整える。 ・送迎時の危険な事例を具体的に伝え、保護者の安全意識を高める。 |
| 子育て支援 | <ul style="list-style-type: none"> ○情報発信をブログからイロドリリンク（ドキュメンテーション）に変更し、日々の教育・保育の様子・園便り・通信等を配信してきた。それにより既読率が90%になった。同時に事務の効率化にもつながった。 △スモックの導入について、保護者の意見を取り入れ、より良い着用の仕方について検討を進めているが、導入までにはまだ時間がかかる。 △家庭では好き嫌い等で困っている保護者の意見が多かった。 | <ul style="list-style-type: none"> ・今後もイロドリリンクを活用して、保護者との連携を図る。 ・離乳食の進め方、食事の適量等、食べさせ方などについて園と家庭で工夫しながら進めていく。 ・給食参観で実際に食べている様子を見てもらう機会をつくり、食育に関心をもってもらう。 ・スモック着用について賛否両論あるが、機会をみてねらいや良さを伝えていく。思い存分遊ぶ、活動しやすい服装を目指していく。 |
| 人材育成 | <ul style="list-style-type: none"> ○研修で学んできたことを全職員に報告し還流する機会をもつことができた。 ○日常の教育・保育を見せ合う機会「きらきらタイム」をどのクラスも実施することができた。お互いの教育・保育を見ることができ、感想が励みになり自信につながった。 △職員の園外研修に対する意欲が低い。 △保護者との子育てについての価値観や感覚の違いを感じていたが、具体的な手立てがとれなかった。 | <ul style="list-style-type: none"> ・研修で学んだことの還流は、口頭報告に終わらず資料や機器等を使って分かりやすく伝える工夫をする。 ・魅力ある研修を紹介したり、参加方法を工夫したりして研修意欲を高めていく。 ・子育てについて、園と保護者の感覚の違いをどう捉え、どう対処していくのがよいかを部会やクラスで話し合い具体的な取り組みにつなげていく。 |
| 評価委員による総合評価 | <ul style="list-style-type: none"> ・子どもや保護者のアンケートから、自然環境に恵まれた中ででのびのびと遊び、ムッレ教室や畑の野菜作りについて高評価であったことは、園の特色と取り組みが活かされ定着している。 ・コロナ後から、クッキングや貸出絵本等が再開して活動が広がったことは、子どもにとっても親子の触れ合いとしても大変良かった。 ・研修報告「子どもが夢中になって遊ぶ環境構成」の取り組みは、子どもの活動によって環境構成を変化させていくことの大切さがわかった。今後も子ども達を中心とした更なる取り組みを期待します。 ・園内外の整備は大変ですが、引き続き環境整備を進めていき、子ども達が安全に遊べるようお願いしたい。 ・食育のこと、スモックの導入、子育てについての価値観や感覚の違いについて、積極的に保護者に啓発していくことが大切である。 ・安全管理の面から送迎時の危険な事例を具体的に伝え、保護者の安全意識を高めてほしい。 ・イロドリリンクの活用により、保護者への発信力の向上やペーパーレス化による業務効率化が図れたことは大変良かった。 ・園内の職員研修の取り組みは大変良いと思います。今後も研修や学んだことの還流を進めていただきたい。 | |
| | 認定こども園いちじまこども園 令和7年3月31日 園長 田野 悟 | |